

本年度のコミュニティスクールの活動について

本年度、朝明中学校は四日市市教育委員会から「四日市版コミュニティスクール（CS）」の指定を受け、地域と連携した新たな取組を展開してきました。このことについてはこれまでもお伝えしてきましたが、その取組が10月・11月に実施されました。

今回は、改めてCSの意義等にも触れながら、これまでの取組の状況を整理してご報告したいと思います。

1 郷土愛を育むCSの取組

(1) 経緯

平成18（2006）年、教育基本法が改正され、学校・家庭・地域住民等の相互の連携協力に関する規定が盛り込まれました。それを受け、学校教育の指針である学習指導要領では、「学校がその目標を達成するため、地域や学校の実態等に応じ家庭や地域の人々の協力を得るなど、家庭や地域社会との連携を深めること」と表記されています。

こうした動きから、四日市市教育委員会は、すべての小中学校を「四日市版コミュニティスクール（CS）」とする施策を展開しており、単なる「地域に開かれた学校」ではなく、保護者・地域の皆さんが学校づくりに主体的に参画する「地域とともに作る学校」の実現を目指しています。こうした背景には、**郷土愛の育成**が教育を取り巻く喫緊の課題として重視されるようになってきたことがあげられます。

(2) 意義

今日、都市化あるいは過疎化が進んでおり、そのために郷土に対する愛着や郷土意識が希薄になっている傾向がみられます。しかし、生徒にとって、地域社会は家庭や学校とともに大切な生活の場です。郷土によって育まれてきた伝統と文化に触れ、体験することを通して、そこに住むことの喜びが生まれ、地域社会の一員としての自覚がもてるようになり、郷土を大切に作る心や態度も育まれます。また、このような郷土をつくりあげてきた人々への尊敬の念や感謝の気持ちも生まれてきます。郷土を愛し大切にすることは、長い間にわたって、今、自分たちが生活している郷土をつくりあげてきた伝統と文化、先人や高齢者たちの努力に思いを寄せ、そのことに対する感謝の心を持ち、これを今後の人々のためにより発展させて引き継いでいくことに他ありません。

(3) 取組の柱

本年度、CSの指定を受けた本校は、「**地域理解**」と「**地域貢献**」をCSの教育活動の柱とし、地域の皆様からご協力をいただきながら、各学年で発達段階に応じた取組を展開してきました。

まず1年生は、地域についての学習を進めながら地域理解を図る取組を実施しました。具体的には、コースを4つに分け、生徒たちに興味関心のあるものを選択させました。そして、学習活動の中で、地域の方をゲストティーチャーとしてお招きして教えていただいたり地域行事に参画させていただいたりしました。その様子を裏面に掲載します。

(なお、2・3年生の取組については、紙面の関係上、次号でお伝えします。)

2 第1学年の取組

【久留倍学習コース(60名)】 (概要) 久留倍官衙遺跡について学び、大矢知地区に歴史上で重要な遺跡があることを知る。また、久留倍まつりに歴史劇の上演により参加。



久留倍官衙遺跡の見学(10/14)



文化祭での発表(11/7)



久留倍遺跡まつりでの発表(11/8)

【八郷フェスタ in 伊坂ダムコース(60名)】 (概要) 八郷フェスタ in 伊坂ダムのスタッフとして企画を手伝うことで、地域の町づくりに貢献する。また、事前学習(八郷地区の歴史)の内容をハウス(八郷小)で発表。



八郷フェスタ in 伊坂での発表(11/8)

【地場産業調査コース(56名)】 (概要) 大矢知そうめんや八郷汁、地酒などの産業について学び、伝統産業のあり方について自分なりの考えを持つ。また、現地取材として工場などの調査を行う。



群馬製粉での調査



四季彩大矢知店での調査



松永製麺での調査(10/14)

【環境防災調査コース(53名)】 (概要) 朝明川の水質や生き物、地域の防災対策などについて学ぶことで、地域の環境や防災について理解を深める。現地取材として、朝明川の水質調査や校区の防災対策などについて調べ学習を行う。



八郷地区の防災調査(10/14)



※「和学鍛」はホームページにも掲載いたします。